

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501149		
法人名	社会福祉法人 泰生会		
事業所名	グループホームこもれび あじさい		
所在地	伊達市松ヶ枝町154-20		
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_Q22_kihon=true&JigyosyoCd=0173501149-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響により毎年行っているりんご狩りやバーベキュー、ご家族、友人、知人、自治会との交流がほとんどできませんでした。新型コロナの影響により事業所内の疾病対策、蔓延防止策、職員の意識改革を行い一人の感染者も出さずに乗り越える事ができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は道央道の伊達インターチェンジから近く、周辺には大型商業施設や飲食店、病院、小学校、高校も点在し、また緑や自然も豊かであり、暮らしに便利な住環境下に立地している。開設は2004年で20年を迎え、2階建ての建物に2ユニット18人の高齢者が生活を共にしている。当地域は伊達市の福祉計画に基づき、福祉の町として高齢者施設や障がい者施設が多く建ち並んでおり、法人が違っても相互に連携を取り合う協力体制が築かれている。事業所の隣には堅牢な3階建てのケアハウスがあり、母体法人の本部もあるため防災訓練や行事等は合同で行う等、連携は密に取れており、地元住民を含め安心できる支援体制を整備している。現在も行事等は相互に自粛傾向にあり、地域自治会と交流は難しいが、理念にある地域の一員への思いは困難な現状だからこそ会議等で確認している。また災害についても24時間対応の対策を講じており、独自の自家発電の完備や隣接のケアハウスへの避難も訓練に盛り込みながら、不意の災害に備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時のオリエンテーション、各会議(職員会議、カンファレンス等)により利用者様が地域の一員として生活する施設であるという理念を伝え共有し実践している。	法人理念の他、全職員で意見を出し合って作成した理念を掲げ、日常的に共有している。また、介護姿勢、理念の達成度について定期的にスタッフ会議の場で検証、協議しながら、実践に努めている。	
2	2	伊達市松ヶ枝町154-20 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自粛傾向にあり、行事等、地域住民や家族等の交流はほとんどできませんでした。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。現在は、地域包括支援センターの認知症についての普及・啓蒙活動に参加し、事業所の活動について発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自粛傾向にあり、行事等、地域住民や家族等の交流はほとんどできませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員と話し合いをしたり、家族や地域包括支援センターなどに報告し、意見を頂き、それをもとにサービスの見直しをしています	家族、地域代表、包括支援センター等の参加・出席を得て定期開催している。行事や職員研修の説明に留まらず、事故についても報告し、サービスに結び付けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や窓口で相談し、アドバイスを頂きながら協力関係を築けるよう取り組んでいます	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への参加・協力や運営状況や事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会や、社内研修を行い身体拘束の具体的な行為を学び、安全面に配慮し自由に生活して頂けるよう職員で話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいます	身体拘束委員会を設置し、指針を定めて3ヶ月ごとに開催している。事案は現状の介護内容の検証や事例検討等々で議事内容については、都度職員に周知徹底するなど、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に社内研修を行い、学ぶ機会を持ち日々、適切なケアが出来るように努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご家族支援や、機会あるごとに日常生活自立支援事業も含め、地域包括支援センターの職員とも連携をとっていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に於いて、契約書、重要事項説明書を提示し納得いく説明を行い同意を頂いている。又解約時にはご家族の不安や疑問点を伺い今後の方向性も視野に入れ十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時や電話などで意見やご要望をお伺いし意向に沿ったケアを行えるように努めています	定期的にお便りを発行し、利用者の様子を伝えるように努め、意見箱を置いたり、また運営推進会議への意見を求めたりと、あらゆる機会を通じて意見や苦情を掘り起こし、誠実なサービス内容になるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を重視し意見交換を行える機会を設けています	職員会議では色々な意見や提案が行われるように努め、日々の申し送りや研修時でも時間を設けて、話し合う機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が目標を持ちステップアップを目指し向上心を持って働けるよう努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、社内研修を行っています。一人一人の持つ力、経験を把握し働きながらスキルアップしてもらえるよう取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響により相互訪問や勉強会等は中止しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様にお会いし面談を行い、不安な事や要望等を確認します。その上で安心して生活して頂けるよう支援します		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様とお話しして意見や要望、不安な事をお聞きし、希望に沿った生活を送れるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様のお話を聞く事で必要なサービスを把握し柔軟にサービスを提供出来るよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と一緒に食器拭きや洗濯物を畳んで頂いています。一緒に考え意見を出して頂きより良いサービスを提供出来るよう努めています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限が緩和され、電話や手紙で、ご本人様の様子をお伝えしたり、ご家族様からの意見や要望を伺い、より良いサービスを提供出来るよう努めています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の為、ご家族様以外の面会には行えていないが、電話でお話したり、お手紙を頂いたり関係が途切れないよう努めています	友人や家族との語らいや、なじみの味覚、見慣れた風景も大切に取り扱い、また今までの習慣に従って、墓参りや参拝等も家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の一人一人の性格を把握し相性を考慮しながら関わり合いを持って生活出来るようお手伝いしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまで築いてきた関係を大切に、何か相談や心配事があればいつでも連絡頂けるようお伝えしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人様に寄り添い希望や意見をゆっくり聞くよう努めています。意思疎通が難しい場合は表情や仕草など想いをくみ取るよう努力しています	生活を支える中で、希望や思いを理解して意向に沿えるように努めている。意思疎通が困難な場合でも仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から本人本位の生活になるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様やご家族様から情報を伺い、出来る事は継続して頂けるよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活リズムを把握し、ご本人様の暮らしの現状を確認し、職員間で共有しています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認し、会議などで話し合いを行います。適切なサービスの提供が出来るよう介護計画書を作成しています	本人と介護にかかわる全職種や家族からの意見を踏まえて、定期的にカンファレンスを実施し、見直している。また病変等に対しては直ぐに介護計画を見直し、現状に即した介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はご利用者様の暮らしの様子や具体的な言葉を個別に記録しています。定期的に担当者会議等で話し合い見直しを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外にご家族が対応していましたが、新型コロナウイルス感染防止の為、職員が送迎・同行をしています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、地域交流は行っていません。フロアでのレクリエーションを行い安全で豊かな暮らしが出来るよう努めています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に通っていた病院にするか協力病院にするか、ご本人やご家族と話し合い、希望に沿った受診が出来るよう支援しています	同一敷地内に母体の医療法人があるため、24時間での支援を受ける事が可能で、リハビリに通う利用者もあり、本人の希望に沿った医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化の早期発見を心掛け、体調が悪い場合、協力病院に相談し助言を頂き受診しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、病院関係者と連絡を取り合い利用者様に関する情報を提供し出来るだけ早期退院出来るよう努めています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化終末期についてお話しています。状態を話し合い方針を決めています	看取り介護について、最後まで利用者の希望に沿う姿勢であるが、本人と家族の意向を尊重しながら主治医とも協議し、本人にとって適切な対応になるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が初期対応の実践が出来るよう社内研修など取り入れています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練を実施しています。新型コロナウイルス感染症対策の為、地域の方の参加はありません	火災・自然災害を想定した避難訓練を定例で実施している。地域、近隣住民との協力体制の確認を行い、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し自尊心を損ねない声掛けや対応を心掛けています	礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いや応接、プライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望、想いを話しやすい環境づくりやご自身で決定出来るよう分かり易く伝えるよう心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調、状況、性格に合わせてそれぞれにあった生活が送れる様心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、その人らしい衣服を着られるよう支援しご本人の希望を伺っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌い、アレルギーなどにあわせ食事を提供、職員も一緒に食べ、様子を見守りしています。準備・片付けもしています	献立は食事担当職が立て、利用者一人ひとりの状態に合わせて調理をしている。庭先での昼食やみんなでの焼肉会など、楽しい食事になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好み、体調に合わせて食事形態を変え摂取しやすいよう配慮しています。摂取量・水分量は記録しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを促し、不十分な時は仕上げ磨きを援助しています。夕食後は義歯をお預かりし消毒しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	サポートが必要な方には出来る限りトイレで排泄できるよう定期的に声掛け・誘導を行っています	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	掛かりつけの医師に相談し下剤を処方して頂き、量を調整、排便の有無の確認、記録をしています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調、気分を考慮し、時間や順番など、希望に合わせて支援しています	出来る限り、利用者の希望に沿えるようにしている。拒否のある場合も、利用者の気持ちに寄り添い、声掛けに工夫しながら、心地よく入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にはゆっくり休んで頂ける様に日中活動を促しています。また、睡眠状態を確認し定期的に巡視をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書を確認し、副作用・服用方法を把握し、服用の際、名前・日付を確認し服用後の体調変化も気を付けています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人と家族から趣味・特技をお伺いし個々に合わせた楽しみが増えるよう支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在も全員での外出行事は出来ませんが、暖かい日には近隣を散歩したり、ベンチに座りお花を見てお話ししたりしています	全体での外出行事は自粛しているが、状況に合わせて、少しずつ閉じこもらないように検討し、近隣の散歩等から実践している。スケジュールにレクリエーションを取り入れる等、管理者を中心に、利用者の気分転換や心身の機能維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金の管理をされている方はいません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人からの電話を取り次いだり、ご本人様からの申し出があれば、いつでも電話を掛けられるように支援しています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしたり、利用者様の作品を飾ったりしています。温度や湿度・明るさの調整をし快適に過ごせるように努めています	食堂と居間は事業所の中心部を占め、開放的な明るい空間となっている。廊下や玄関にも施設的な華やかな飾りを排した落ち着いた雰囲気であり、ゆっくりと過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでテレビを見たり、本を読んだり、気の合う利用者様とお話されたり、居室で休まれたり、思い思いに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様の使い慣れた物や好きな物や家具などを配置し今まで通りに快適に過ごして頂けるよう工夫しています	居室には馴染みの家具や備品が自由に持ち込まれ、家族写真や手紙などを飾り、本人にとって居心地よい部屋となるよう努めている。状況に応じた環境作りも、本人、家族と相談して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に表札や目印を付け、分かり易くしています。個々の出来る事を把握し出来ない事は職員と一緒にしながら自立した生活が送れる様に支援しています		